

占。卜。者。人。相。家。相。劍。相。墨。色。見。等。猶。類。多。し。諸。所。に。居。住。し。渡。世。と。す。る。者。數。百。人。あ。る。べ。し。中。に。も。高。名。な。る。も。の。は。立。派。に。く。ら。す。な。り。又。辻。々。往。來。へ。出。て。活。計。と。す。る。者。一。町。毎。に。一。人。づ。つ。は。極。め。て。居。れ。り。千。を。以。て。か。ぞ。ふ。べ。し。

〔江戸繁昌記 初篇〕賣卜先生

人庶而事繁、事繁而惑滋、筮肆之數、不得、不從、滋也、大槩案上、展一卷人相圖本、芸々說起、曰、日角如斯而惡、曰、人中如斯而善、是凶是吉、懸河瀉水、行人止而環焉、每有乞者、輒合目戴策、例曰、假爾泰筮有常、或雜唱以土保加美、依身多女、或併稱以念佛題目、二分四揲、遇觀之否、更秉天眼鏡、照手理察面部、目注其容貌衣服、心判其都人與僮父、遂又例曰、君過年運祿未盈、今歲比至某月、福自此多、一言一面其所占、多取之於乞者之色、猶與庸醫鈎取證於病人之口、略似矣、或太息曰、君身如觀大厄、且吉凶禍福有所宜、細告二十四銅、不滿其報也、三尺之喙、五十之筮、遂卒使其倒囊、又有卜而巫者、輿設神位、莊嚴煥發、使人敬而近之、此都繁昌、亦可以卜焉。

〔月令廣義 二十二〕古事 略 中

君平賣卜 嚴君平賣卜成部、日閱數人、每依卦辭、教人忠孝、日得百錢、則閉肆、下簾、講讀老子。

〔俳諧百畫贊 上〕蝸やそろく 仕廻ふ八封店 略 圖

〔嬉遊笑覽 八術〕卜者をうらやさんといふは、うらへさんか、占はすを、うらへといふ活用の語なれ共體語とす、さんは算なるべし、卅二番職人歌合に、算おき有鶴岡職人歌合にも有其歌、こしほどのかり屋の内に身をおけるさん所のもの、恨めしの世や、判云、算おきの述懐、興ほどのかりやの内、さこそとおしはかられ侍り、がうなの貝のかたつぶりの家も、みなおのが身にあはせては不足なきにや、五尺の身三尺のかりやにて、ひねもすとふ人を待居たる一生涯の果報をも、自身にかんがへぬらん、さん所といひ、さん所のもの、とつゞけぬる、いとよくいひくさりぬるにやと有、その